第５章　震災教訓の伝承　3.11 伝承・減災プロジェクト

第１節　プロジェクトの立ち上げと震災から 10 年までの取組み

第１項　背景

東日本大震災において明治・昭和の大津波で被災した地域でさえ再び被害にあった例が見られたように，津波災害は，発生頻度が希で世代交代を重ねるうちに記憶が風化され，防災意識が薄れることが指摘されている。二度と同じ惨事を繰り返さないためにも，東日本大震災の経験を永く確実に伝承し，地域ぐるみの『避難行動』として代々受け継いで行く必要がある。

県土木部では，平成 23（2011）年度より「3.11 伝承・減災プロジェクト」を立ち上げ，被災事実を後世に伝承し，迅速な避難行動が県内に根付くようさまざまな試みに積極的に取り組んでいる。

第２項　プロジェクト概要

「3.11 伝承・減災プロジェクト」は，以下の３本柱で展開している。

“記憶”より“記録”で**『ながく』**伝承
かたりべの裾野を広げ**『ひろく』**伝承
防災文化を次世代へ　**『つなぐ』**伝承

平成 25（2013）年度からは官民協働で取り組む「伝承サポーター制度」を導入し，本プロジェクトの拡充を図っている。本プロジェクトでは，パネル展や報告会を開催するなど，県内のみならず全国へ向けても機会を捉えて発信している。

3.11 伝承・減災プロジェクト

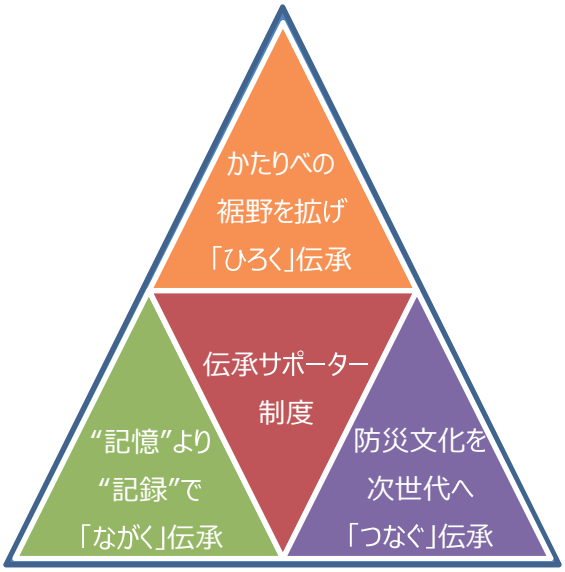


図 5-1　3.11 伝承・減災プロジェクト概念図

本プロジェクトの具体的メニューは次のとおりである。

１．“記憶”より“記録”で「ながく」伝承

（１）津波浸水表示板設置
　　令和２年度末時点で３２０箇所，３９９枚を設置
（２）海岸防御施設及び減災施設築造に係る計画概要の現地表示
　　「東日本大震災伝承版」として七ヶ浜町菖蒲田海岸等に設置
（３）津波資料のアーカイブ化
　　記録誌の毎年度発刊，東日本大震災に関する図書・映像の一元化
（４）震災遺構（公共土木施設）の保存
　　県庁県政広報室に常設展示
　　震災伝承施設等での展示

２．かたりべの裾野を拡げ「ひろく」伝承

（１）津波防災シンポジウムの開催
　　平成 18 年度から，主に毎年５月の「みやぎ津波防災月間」に実施
（２）津波防災パネル展の開催
　　県政広報室，三陸自動車道春日ＰＡに常設展示
　　県内外のイベント等で開催
（３）宮城県外での報告会の開催
　　全国の都道府県や建設技術協会等に対し東日本大震災の報告会を開催

３．防災文化を次世代へ「つなぐ」伝承

（１）防災教育の取組
（２）防災出前講座の実施
　　みやぎ出前講座として小学生向け及び町内会向けを追加
- 波防災シンポジウムの開催（再掲）
- 津波資料のアーカイブ化（再掲）

４．伝承サポーター制度

当プロジェクトに賛同し，伝承・減災を後押しして頂ける方々を広く募集し「伝承サポーター」として認定する制度。企業，個人を問わず伝承・減災を担う地域のサポーターの立場で活動していただく。

「自らが所有する建造物等に津波浸水表示板を設置していただける方」も伝承サポーターとして認定してきた。

1．“記憶”より“記録”で「ながく」伝承

震災の記録を残し，後世に伝える表示，施設の保存を行っている。

(1) 津波浸水表示板の設置

記録，伝承，啓発，減災の効果を発することを目的として，道路や公園などの公共施設に東日本大震災の津波高を示した津波浸水表示板を設置している。当初は，公共施設を中心に実施していたが，平成25（2013）年度からの「伝承サポーター制度」導入に伴い，民間企業，町内会の集会所，個人宅等でも設置している。令和2（2020）年末までの津波浸水表示板の設置数は，公共・民間施設合わせて県内320箇所，計399枚に達した。

実物大のハザードマップとして，地域住民の防災意識の啓発や地域事情に不慣れな観光客等への注意喚起を図り，避難行動のきっかけに結びつく取組として展開した。

図 5-2　津波浸水表示板（上：300×1,200サイズ，下：300×600サイズ）

図 5-3　津波浸水表示板の設置状況

（左：県道杉ヶ原増田線（名取市美田園地内），右：藤田公会堂（仙台市若林区荒井地内）

津波浸水表示板　（2021/3/31 現在）

・設置箇所：320 箇所

・設置枚数：399 枚

図 5- 4　津波浸水表示板の市町村別設置状況（令和 3（2021）年 3 月末時点）

(2) 東日本大震災伝承板の設置（沿岸防御施設及び減災施設築造に関する計画概要の現地表示）

河川，海岸堤防のL1津波（レベル1津波：発生頻度の高い津波）の高さの考え方などを現地に表示し，東日本大震災による当該地域の被害状況や防災道路，住宅の内陸移転，津波避難ビルなどの復興まちづくり計画も併せて紹介し，訪れた多くの方々に対して，多重型の津波防災対策について広く周知している。

より多くの人に復興事業を知っていただくために完成した施設近傍の公園等への順次設置を進めており，令和2（2020）年3月31日現在，5基の設置が完了した。

図 5-5 東日本大震災伝承板（松島海岸設置）

図 5-6 東日本大震災伝承板（向洋海浜公園設置）

(3) 津波資料のアーカイブ化

東日本大震災に関する図書，映像等を一元的に収集・管理し，今後の防災活動等へ活用する。河川，海岸堤防等の施設復旧に関して計画，断面決定に関するプロセスを一元的に保管管理する事により，今後の震災発生時の早期復旧計画の策定に活用していく。

また，宮城県土木部でも独自に東日本大震災の記録誌を毎年発刊し，震災の教訓や活動を記録に残し伝承に努めている。

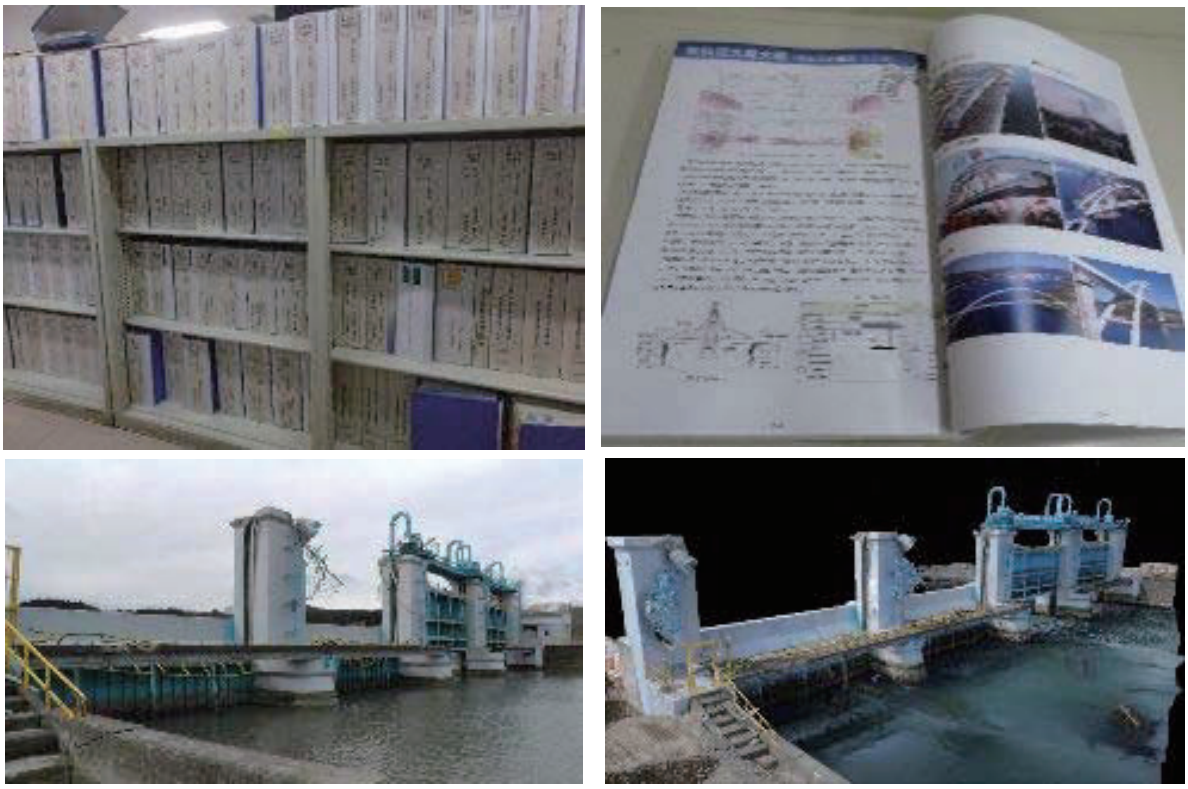


図 5-7　県土木部に蓄積されている震災関連資料

表 5-1 宮城県土木部が作成した東日本大震災に関する記録誌一覧

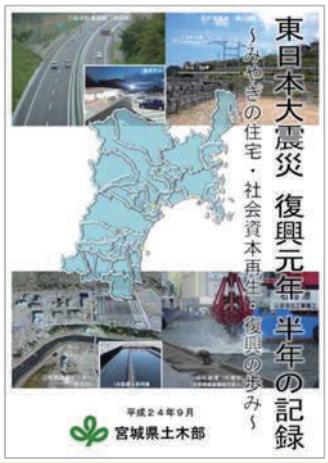
<table>
<tr><th rowspan="2">年度</th><th rowspan="2">土木部の活動記録</th><th colspan="3">分野別の記録</th></tr>
<tr><th>災害復旧</th><th>まちづくり</th><th>住宅</th></tr>
<tr><td rowspan="2">復旧期</td><td rowspan="2">H23</td><td colspan="3">宮城県社会資本再生・復興計画（H23.10）【土木総務課】［94頁］</td></tr>
<tr><td>東日本大震災半年の記録
【土木総務課】［217頁］</td><td colspan="2">公共土木施設等復旧方針
（H24.2）【土木総務課】
［104頁］</td></tr>
<tr><td>復旧期</td><td>H24</td><td>東日本大震災１年の記録
【事業管理課】［308頁］</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>復旧期</td><td>H25</td><td>東日本大震災２年目の記録
【事業管理課】［336頁］</td><td colspan="2">仙台港背後地土地区画整理事業の復旧・復興の記録
（みなと仙台ゆめタウン
（H26.3）【都市計画課】</td></tr>
<tr><td>再生期</td><td>H26</td><td>東日本大震災３年目の記録
【事業管理課】［240頁］</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>再生期</td><td>H27</td><td>東日本大震災４年目の記録
【防災砂防課】［422頁］</td><td>蘇れ 宮城の下水道～東日本大震災からの復旧の記録～（H28.3）【都市計画課】
［241頁］</td><td>復興まちづくり初動期物語
（H28.3）［200頁］
宮城県復興まちづくりのあゆみ～集中復興期間の総括及び復興・創生期間に向けて～（H28.3）【都市計画課】［85頁］</td></tr>
<tr><td>再生期</td><td>H28</td><td>東日本大震災５年目の記録
【防災砂防課】［220頁］</td><td>公共土木施設等災害復旧事業検証報告書（H29.3）
【防災砂防課】［293頁］</td><td>災害公営住宅整備の記録
（中間）（H29.2）
【住宅課】</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="2">災害に強いまちづくり宮城モデルの構築（概要版）（H29.3）
【土木総務課】［438頁］</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td colspan="3">東日本大震災5年間の復旧・復興の記録（H29.3）
【土木総務課】［261頁］</td></tr>
<tr><td>再生期</td><td>H29</td><td>東日本大震災６年目の記録
【防災砂防課】［276頁］</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>発展期</td><td>H30</td><td>東日本大震災７年目の記録
【防災砂防課】［265頁］</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>発展期</td><td>H31/R1</td><td>東日本大震災８年目の記録
【防災砂防課】［275頁］</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">発展期</td><td rowspan="2">R2</td><td colspan="3">宮城県土木・建築行政推進計画（2021～2030）（R3.1）【土木総務課】［63頁］</td></tr>
<tr><td>東日本大震災９年目の記録
【防災砂防課】［276頁］</td><td>東日本大震災宮城県河川海岸復旧・復興環境配慮記録誌（R3.3）【河川課】
［344頁］</td><td>宮城県復興まちづくりのあゆみ（R3.3）【都市計画課】［140頁］</td><td>災害公営住宅整備の記録
（R2.6）
【住宅課】［244頁］</td></tr>
<tr><td rowspan="2">復興後</td><td rowspan="2">R3</td><td>東日本大震災１０年目の記録（R4.1予定）
【防災砂防課】

東日本大震災10年間の記録
（R4.3予定）【土木総務課】</td><td colspan="2">復興まちづくりの検証・伝承（R4.1予定）
【都市計画課】

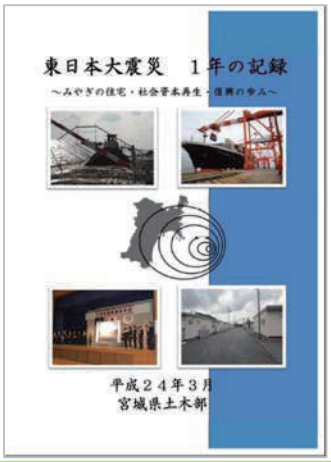
災害に強いまちづくり宮城モデルの構築【総括版】（本誌）
【土木総務課】</td></tr>
<tr><td colspan="3"></td></tr>
</table>

■東日本大震災に関する図書

※県ＨＰ参照　http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/indexjisinkirokusi.html



復興元年　半年の記録



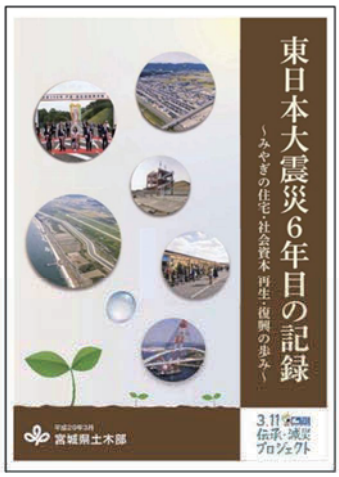
１年目の記録

２年目の記録

３年目の記録

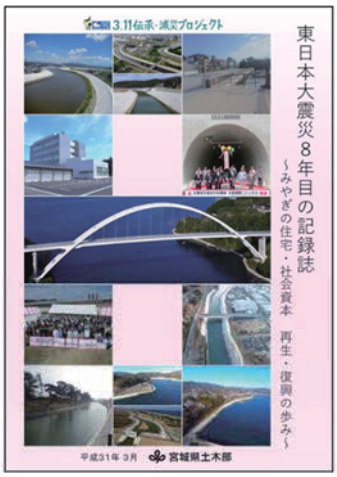
４年目の記録

５年目の記録



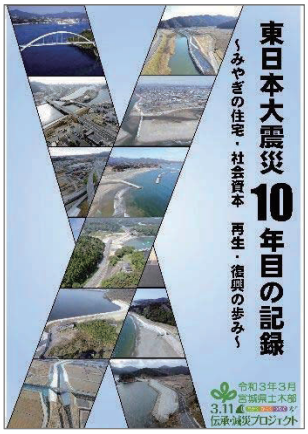
6年目の記録

7年目の記録



8年目の記録

9年目の記録

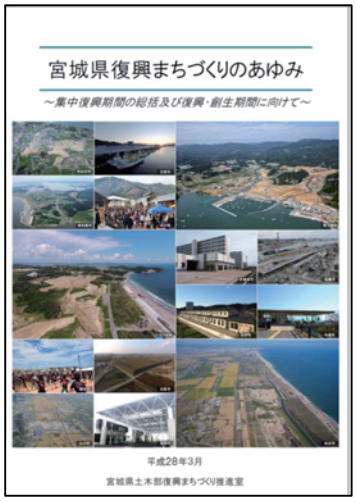


１０年目の記録

■復興まちづくりの記録

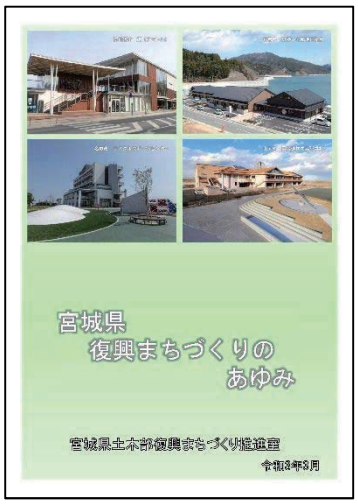
※県ＨＰ参照　http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/tosikei/ayumi.html

宮城県復興まちづくりのあゆみ
～集中復興期間の総括及び
復興・創生期間に向けて～　(H28.3)



宮城県復興まちづくりのあゆみ

（R3. 3）

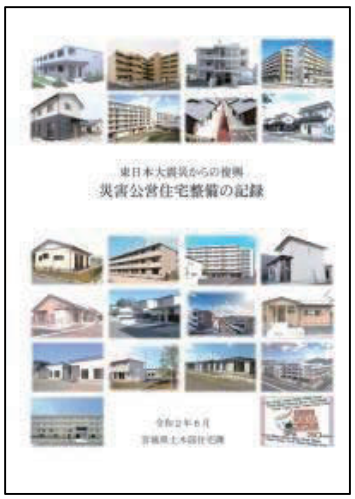


■災害公営住宅整備の記録

※県ＨＰ参照　https://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/seibinokiroku.html

東日本大震災からの復興
災害公営住宅整備の記録

（R2. 6）

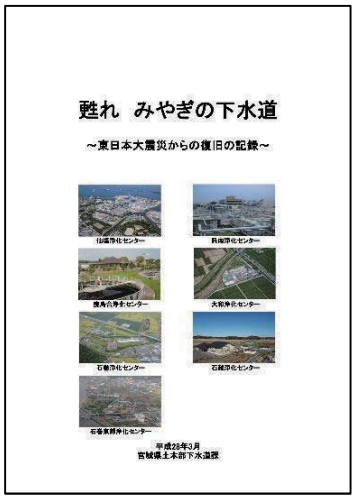


■下水道施設復旧の記録

※県ＨＰ参照　http://www.pref.miyagi.jp/site/ej-earthquake/75-23-3-11jisin-yomigaere.html

蘇れ　宮城の下水道
～東日本大震災からの復旧の記録～

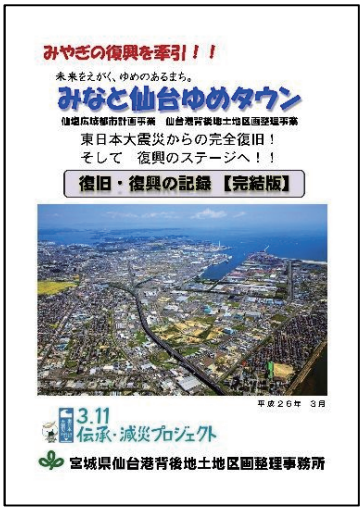
（H28. 3）



■仙台港背後地土地区画整理事業の復旧・復興の記録

※県ＨＰ参照　http://www.pref.miyagi.jp/site/sd-haigo-subsite/kirokushi.html

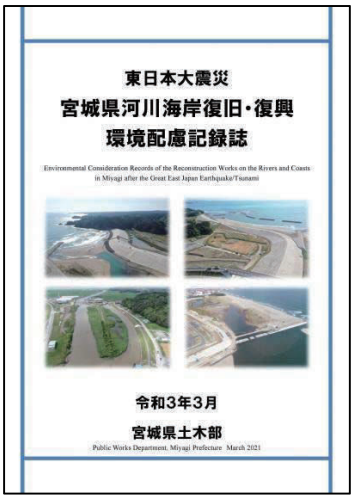
みなと仙台ゆめタウン
復旧・復興の記録
(H26. 3)



■河川海岸環境配慮記録誌

※県ＨＰ参照　https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/kasen/environmental-consideration-records.html

東日本大震災
宮城県河川海岸復旧・復興
環境配慮記録誌　(R3. 3)



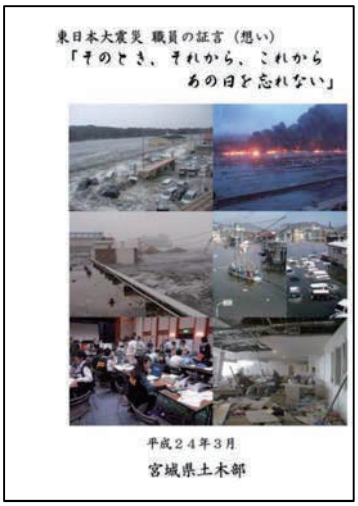
■職員の証言記録

※県ＨＰ参照　http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/jigyokanri/syokuinsyougen.html

東日本大震災　職員の証言（想い）

～そのとき　それから　これから　あの日を忘れない～

(H24.3)


東日本大震災 職員の証言（想い）
「そのとき、それから、これから
あの日を忘れない」

平成２４年３月
宮城県土木部

(4) 震災遺構（公共土木施設）の保存

小型の震災遺物を宮城県庁県政広報展示室に展示しており，県民や全国各地から訪れた方々に地震動や津波の脅威，減災の必要性等を伝承している。

図 5-8　小型震災遺物の展示状況（宮城県庁県政広報展示室）

２．語り部の裾野を拡げ「ひろく」伝承

震災の経験を教訓に，防災意識を高める情報を広く提供している。

(1) 津波防災シンポジウムの開催

県では，「ひろく」伝承する取組として昭和 35（1960）年に県内沿岸部にチリ地震津波が襲った毎年５月を，「みやぎ津波防災月間」と定め，県民を対象に津波防災意識の向上を目的とした津波防災シンポジウムを，平成 18（2006）年度から沿岸市町と共催している。毎年テーマを設定し，それに沿った基調講演や沿岸市町及び市民団体等からの情報提供を行っている。東日本大震災により平成 23（2011）年度は中止になったが，その後，震災の記憶の伝承を主なテーマとして継続的に開催している。

表 5-2 各年度の津波防災シンポジウム開催状況

年度	開催地	テーマ
H24	仙台市	～歴史が伝える津波，歴史にしていく津波～
H25	仙台市	～地域で育てる津波防災文化～
H26	岩沼市	実践的防災のススメ～津波～生き残る～
H27	山元町	大地震から学ぶ教訓～後世への震災伝承～
H28	東松島市	語り部が考える”伝承”の在り方～東日本大震災から５年，今，これから，何を語るか～
H29	名取市	新たなコミュニティで生かされる震災伝承とは
H30	女川町	伝承を継続するために～地域の強みを津波防災に生かす～
R元		東日本台風のため中止
R２		コロナ禍のため中止

■これまでの津波防災シンポジウム開催実績（震災後からの開催状況）

平成 24（2012）年（開催地：仙台市）

日時：平成 24（2012）年 5 月 26 日（土）

場所：宮城県庁 2 階

テーマ：**～歴史が伝える津波，歴史にしていく津波～**

基調講演：

「2011 年東北地方太平洋沖地震津波 の被害と教訓」

東北大学　災害科学国際研究所　教授　越村 俊一 氏

「地質学が伝える 先史・歴史時代の津波と 2011 年東北地方太平洋沖地震津波」

千葉工業大学　惑星探査研究センター上席研究員　後藤 和久 氏

報告：

「東日本大震災における県の災害対応とその検証 」

宮城県　総務部　危機対策課　菅原

「今後の津波防災対策」

土木部　防災砂防課　佐藤

参加者：250 名

平成 25（2013）年（開催地：仙台市）

日時：平成 25（2013）年 5 月 25 日（土）

場所：宮城県庁 2 階

テーマ：**～地域で育てる津波防災文化～**

基調講演：

「３．１１東日本大震災の教訓～海と共存する文化を地域に築く」

群馬大学広域首都圏防災研究センター長　片田 敏孝 氏

報告：

「みやぎの防災教育」

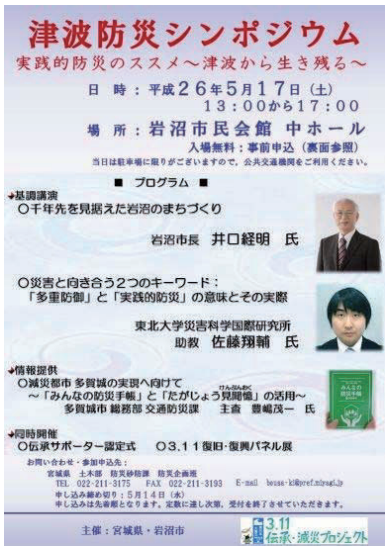
宮城県　教育庁　スポーツ健康課　身崎

「３．１１伝承・減災プロジェクトについて」

土木部　防災砂防課　角田

参加者：200 名

平成 26（2014）年（開催地：岩沼市）



日時：平成 26（2014）年 5 月 17 日（土）

場所：岩沼市民会館　中ホール

テーマ：**実践的防災のススメ～津波から生き残る～**

基調講演：

「千年先を見据えた岩沼のまちづくり」

岩沼市長　井口　経明 氏

「災害と向き合う２つのキーワード：「多重防御」と「実践的防災」の意味とその実際」

東北大学災害科学国際研究所　助教　佐藤 翔輔 氏

情報提供：

〇減災都市 多賀城の実現へ向けて

～「みんなの防災手帳」と「たがじょう見聞憶（けんぶんおく）」の活用～

多賀城市 総務部 交通防災課　主査　豊嶋 茂一 氏

参加者：約 180 名

平成 27（2015）年（開催地：山元町）

日時：平成 27（2015）年 5 月 30 日（土）

場所：山元町中央公民館　大ホール

テーマ：**大震災から学ぶ教訓～後世への震災伝承～**

基調講演：

「大震災の教訓　－学ぶ,生かす，伝える」

公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構

副理事長兼研究調査本部長

兵庫県立大防災教育研究センター　センター長

神戸大学　名誉教授　　室崎 益輝 氏

情報提供：

「大震災の教訓～中浜小・震災遺構の検討を通して～」

山元町教育委員会　教育長　森 憲一 氏

「巨大津波を語り継ぐ」

やまもと民話の会　庄司 アイ 氏

参加者：約 240 名

平成 28（2016）年（開催地：東松島市）

日時：平成 28（2016）年 5 月 14 日（土）

場所：東松島市コミュニティセンター

テーマ：**語り部が考える”伝承”の在り方**

～東日本大震災から 5 年，今，これから，何を語るか～

基調講演：

「災害伝承と災害文化」

東京大学大学院情報学環

総合防災情報研究センター

特任助教　　定池 祐季 氏

語り部講演：

「「濱口梧陵と稲むらの火」～梧陵の心伝えます～」

濱口梧陵語り部

和歌山県広川町稲むらの火の館

元館長　　熊野 享 氏

情報提供：

「防災教育について～災害時にも活躍できる生徒の育成～」

矢本第二中学校　防災主管教諭　鈴木 国也 氏

参加者：約 160 名

平成 29（2017）年度（開催地：名取市）

日時：平成 29（2017）年 5 月 26 日（金）

場所：名取市文化会館中ホール

テーマ：**新たなコミュニティで生かされる震災伝承とは**

基調講演：

「震災伝承のあの日まで・あの日から・これから」

東北大学災害科学国際研究所

助教　佐藤 翔輔 氏

情報提供①：

「大震災で起こったこと～閖上中学校の今日までの取組」

名取市立閖上中学校

教頭　八森 伸 氏

情報提供②：

「もう一度心を一つに、故郷閖上」

閖上復興だより

編集長　格井 直光 氏

参加者 300 名

平成 30（2018）年度（開催地：女川町）

日時：平成 30（2018）年 10 月 31 日（水）

場所：女川町生涯学習センター　ホール

テーマ：**伝承を継続するために**

～地域の強みを津波防災に生かす～

基調講演：

「震災遺構を活用して継続的な伝承を」

一般社団法人減災・復興支援機構

理事長　木村 拓郎 氏

情報提供：

「震災、そして現在をどう伝えていくのか女川さいがい FM の体験から」

一般社団法人オナガワエフエム

プロデューサー・放送作家　大嶋 智博 氏

パーソナリティ　佐藤 敏郎 氏

参加者 200 名

（2）津波防災パネル展の開催

防災意識の向上及び東日本大震災からの復旧・復興状況を発信している。県庁県政広報展示室や三陸自動車道春日 PA の常設展示をはじめ，県内のみならず，全国の各種団体の主催イベント等で広く開催している。

令和 2（2020）年度には，コロナ禍の影響を考慮し「Web パネル展」を開催した。

（参考 URL：https://www.pref.miyagi.jp/site/0311densyogensaip/list602-7963.html）

図 5-9　津波防災パネル展開催状況（左：三陸自動車道春日 PA，右：静岡県富士宮市役所）

図 5-10　津波防災パネル展開催状況（左：東松島市，右：土木学会全国大会（仙台駅））

(3) 県内外での報告会の開催

県外の各種団体等に対し，被害の状況や初動対応，復旧・復興に向けた取組等を報告している。

図 5-11　全日本建設技術協会での報告状況（左：静岡県富士宮市，右：滋賀県草津市）

図 5-12　県内外での報告会（左：第 3 回国連防災世界会議（防災砂防課），右；JICA 視察研修（復興まちづくり推進室））

３．防災文化を次世代へ「つなぐ」伝承

県土木部では，東日本大震災以前から小学校等への出前講座の実施など，津波に関する防災教育に力を入れている。

(1) 防災教育の取組

毎年３月の「みやぎ鎮魂の日」，５月の「みやぎ津波防災月間」，11 月の「世界津波の日」などに合わせ，津波防災教育を積極的に実施した。

(2) 防災教育の出前講座の実施

今後発生するであろう災害から身を守り被災を軽減させるため，出前講座などで東日本大震災を踏まえた防災対策を情報提供していく。また，町内会や自主防災会と協働し，地区の避難路に関連付けた津波浸水表示板の設置に係るワーキンググループを実施しており，今後，まちづくり事業と一体となった津波避難誘導の効率化や津波防災意識の啓発が期待される。

図 5-13　仙台市若林区藤田町内会とのワーキンググループ実施状況

図 5-14　七ヶ浜町及び七ヶ浜町沿岸７自主防災会とのワーキンググループ実施状況

4．伝承サポーター制度

「3.11 伝承・減災プロジェクト」に賛同し，伝承・減災を後押ししていただける方々を広く募集し，「伝承サポーター」として認定した。

令和 2（2020）年度までに，津波浸水表示板を設置していただいた個人を含む 205 団体を認定した。

認 定 書

○○ ○○ 殿

貴団体を東日本大震災の記憶を津波浸水表示板で永く伝承し，地域の減災活動に取組む３．１１伝承・減災プロジェクト「伝承サポーター」に認定致します。

平成○○年○月○○日

宮城県知事
村井 嘉浩

図 5-15　伝承サポーター

（左：認定式実施状況，右上：津波浸水表示板設置状況，右下：認定証の例）

第２節　震災から 10 年目以降の取組

「宮城県社会資本再生・復興計画」が令和 2（2020）年度でその期間終了を迎え，復興まちづくりや防潮堤の整備といったハード面の対策については，多くの地域で完了した。しかしながら，防潮堤だけではすべての津波被害を防ぐことができず，津波の恐れがあるときには，避難が何よりも重要である。

このため震災から 10 年が経過した令和 3（2021）年度も様々な主体が震災伝承に取り組んでいるが，土木部としても「災害に強いまちづくり宮城モデルの構築」の意味を正確に伝え，防潮堤などのハード整備に過度に依存しない，避難の重要性を伝えていくことに重点を置き，令和 3（2021）年度以降も継続的に本プロジェクトを実施していく。

図 5- 16　令和 3（2021）年度以降の 3.11 伝承・減災プロジェクトの位置付け

1）記憶より記録で「ながく」伝承

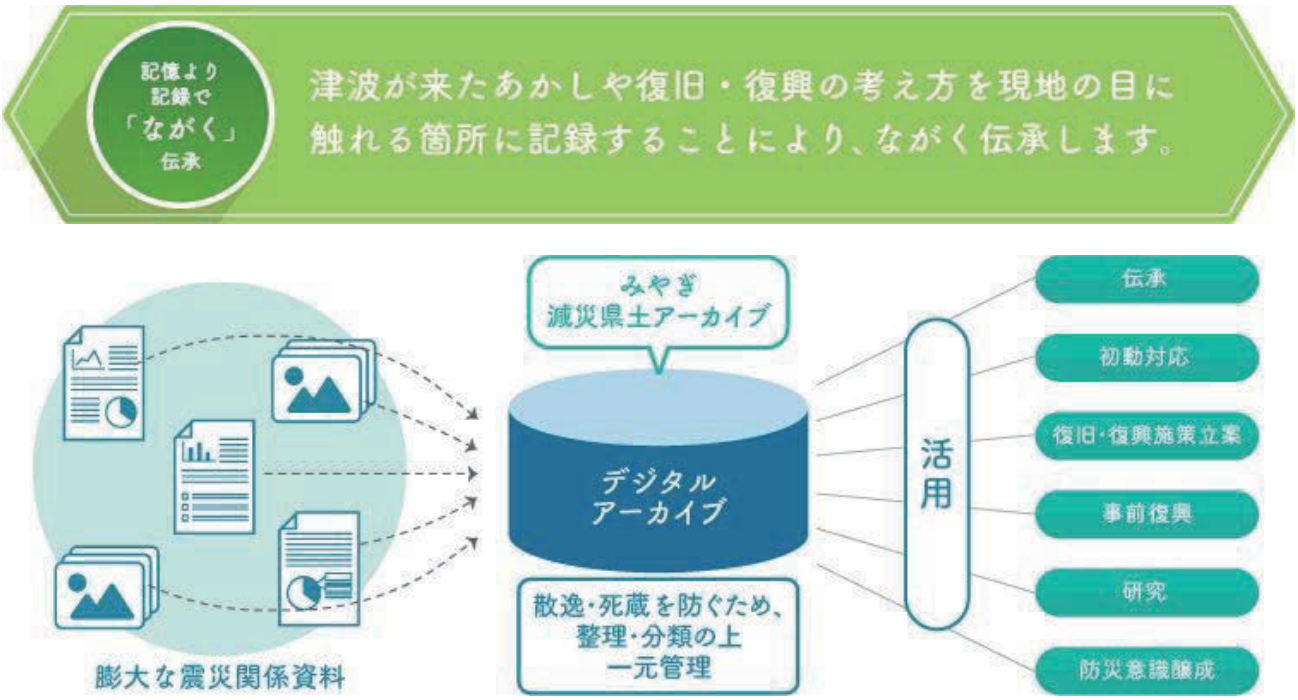


図 5- 17 デジタルアーカイブの概要

○デジタルアーカイブ

土木部に蓄積されている膨大な震災関係資料には，東日本大震災の教訓や災害に強いまちづくり宮城モデルの構築に関する取り組みが凝縮されているが，県庁各課室や事務所に散らばっており，今後の震災伝承の取組に向けて十分な整理・分類がされていない状況であった。そこで，震災関係資料を広く活用していただくため，震災関係資料をデータベース化し，公開する取組を行っていく。

2）かたりべの裾野を拡げ「ひろく」伝承

図 5- 18 津波防災シンポジウム

図 5- 19 復旧・復興パネル展

県土木部では，各所の様々な機会でシンポジウムや復旧・復興パネル展を開催している。復旧・復興事業の進捗状況などとも合わせて最新情報を発信することで，県民の復旧事業への興味関心を喚起し，防災意識の向上を図っていく。また，同様のパネル展を県外でも開催し，ひろく防災文化の普及を図ることとしている。

3）防災文化を次世代へ「つなぐ」伝承

図 5- 20 地域への出前講座

全国の行政機関に向けて，東日本大震災時からの復旧･復興事業で得た経験や知見や 3.11 伝承減災プロジェクトの取組等について伝えることで防災文化の普及を図っていく。また，県民に向けて，「3･11 伝承減災プロジェクトについて」等の講座を実施し，防災意識の啓発を図っていく。